

2018 年度決算説明会における主要な質疑応答

質問	回答
<p>Q1 : 2018 年度の航空宇宙システムの営業利益が 1 月公表値から約 30 億円下ぶれした背景を教えてください。</p>	<p>A1 : 防衛省向けやジェットエンジンの売上計上時期が 2019 年度に時期ずれしたことによる売上減少に伴い、営業利益が 1 月公表値から約 30 億円の下ぶれとなりました。</p>
<p>Q2 : 2019 年度の航空宇宙システムの業績見通しについて、2018 年度比で売上高は約 560 億円の増収になりますが、営業利益は 6 億円の減益となる要因を、機体とジェットエンジンに分けて教えてください。</p>	<p>A2 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 機体：新型機種であるボーイング 777X の生産機数は増加するものの、コストダウンがまだ十分に進んでいません。また、ボーイング 787 も生産機数は増加するものの、コストダウンが十分に進んでいない派生型機が増加していること等から、収益性が低下しています。 ② ジェットエンジン：民間航空エンジンの売上は増加するものの、開発費の償却負担が大きいため、収益性が低下しています。
<p>Q3 : 2019 年度の精密機械・ロボットの業績見通しについて、営業利益率が改善する要因を、精密機械（油圧）とロボットに分けて教えてください。</p>	<p>A3 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 油圧：2018 年度は一時的な増産対応費用の発生によって収益性が低下しましたが、2019 年度は増産体制の整備が進んだこともあり、収益性の改善を見込んでいます。 ② ロボット：2018 年度は半導体市場が落ち込みましたが、2019 年後半からの回復を期待しており、半導体製造装置向けロボットの売上増加に伴う収益性の改善を見込んでいます。

以上